



2012年12月、ブリュッセルとアントワープのほぼ中間に位置する街メッヘレンに新しくオープンしたのが、ホロコースト博物館です。

もともと、ここは18世紀中頃市民の住居エリアとして開発され、第一次世界大戦時にはベルギー軍の官舎や武器庫として使われました。その後の第二次世界大戦時、メッヘレンという街がもつ立地条件の良さからメッヘレン親衛隊中継収容所が設置され、この地からユダヤ人がアウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所へと送られました。

1942年8月の第一弾移送列車から1944年8月に閉鎖されるまでの間、ベルギー国内および北フランスで捕えられた約25,600人のユダヤ人や352人のロマ(移動型民族)はユダヤ人強制収容所へと送られ、その回数は28回にも及びました。移送された男性・男児の半数、3/4の女性・女児は到着するなりガス室で殺害され、その他の人たちは虐待や飢え、病気などで次々と死亡し、最終的に生存できたのは約5%にあたる1,250人のみでした。

1995年、ユダヤ人コミュニティの協力のもと「ユダヤ人強制収容所移送と対独抵抗運動博物館」として博物館が開館したものの、来館者の増加に伴い拡張計画が持ち上がり、紆余曲折を経て「ホロコースト博物館」として再開館しました。

「ここから出た犠牲者数とほぼ同数のレンガを使用したかった」という建築家Ob Van Reethの弁の通り、25,000個のレンガが外壁に使われています。中に入ると、移送された人びとの顔写真が一面貼られた壁がまず目に飛び込んできます。ユダヤ人大虐殺に関する生存者の証言、当時の様子や迫害された人々の写真、文書が展示されている館内をまわる前に、まず0階でオーディオガイドを手に、ユダヤ人やホロコーストの歴史、さらには昨今のいじめ問題など分かりやすく説明したビデオを見ましょう。



1階は「MASS(群衆)」と名付けられ、集団となった人々が生み出すパワーが政治の武器にもなるなどの説明と共に1940年までの歴史が説明されています。

2階は「FEAR」として、ユダヤ人向けの身分証、禁止法令やユダヤ人マークの装着義務など迫害されていく様子が展示されています。

3階は「DEATH」。強制収容所へ送られた人々の様子や持ち物が展示されています。

4階は特別展が開催されているほか、展望エリアからはメッヘレンの街を見ることが出来ます。

また、道路を挟んで向かいのメモリアル館の地下では、各移送車に乗せられた人の名前が延々と読み上げられ、改めて歴史が現実であったことが思い知らされます。



**Kazerne Dossin**  
Goswin de Stassartstraat 153  
2800 Mechelen  
Tel 015 29 06 60 (10~17h、水休)  
[www.kazernedossin.eu/EN](http://www.kazernedossin.eu/EN)  
美術館背後に公共駐車場有り  
入場料：大人€10、シニア€8、26歳未満€2

Breendonkにも強制収容所が有ります。  
Mémorial National du Fort de Breendonk  
Brandstraat 57, 2830 Willebroek  
[www.breendonk.be](http://www.breendonk.be)  
9h30~17h30  
大人€8、6~18歳・学生・シニア€7、  
ファミリーチケット€25 (大人2人、18歳未満の子ども2~3人)



## THE CONNOISSEURS

- ANA Fine Dining & Bar -

### 新しい機内食サービスがスタートします。

15名のパートナーと9名のANAシェフからなる「THE CONNOISSEURS(ザ・コノシエアーズ)」を立ち上げ、2013年9月1日より、国際線(日本発便)のお食事・お飲みものと、国内線プレミアムクラスのお食事(一部)をプロデュースいたします。ANAシェフが、技術と経験に裏打ちされた確かなメニューをお届けするとともに、路線・季節により、さまざまなTHE CONNOISSEURSパートナーによる上質でワンランク上のお食事をお楽しみいただけます。



写真はイメージです。